

農林水産大臣賞受賞

そばの力で農村集落を次世代へ
～伝統と革新が息づく力強いむらづくり～

よこおかしゅうらく

受賞者 **横岡集落**

(秋田県にかほ市)

地域の沿革と概要

秋田県にかほ市は県南西部に位置し、西に日本海、南に日本百名山「鳥海山」を望み、気候は県内で最も温暖で降雪量が少ない地域である。鳥海山の伏流水が湧き出す漁場で獲れる天然の「岩ガキ」や、温暖な気候で育まれる北限のイチジク「ブルンスウィック」等が有名で、他に米やねぎ、小ギク等の生産が盛んである。

平成17年に仁賀保町、金浦町、象潟町の合併により誕生し、面積は約241km²となっている。

約2500年前に鳥海山が山体崩壊して形成された陸地に現在の市域が展開しており、国指定天然記念物「象潟」九十九島をはじめとする独特な風景に恵まれ、平成28年には、にかほ市を含む秋田県、山形県の3市1町をエリアとする日本ジオパーク「鳥海山・飛島ジオパーク」が認定された。

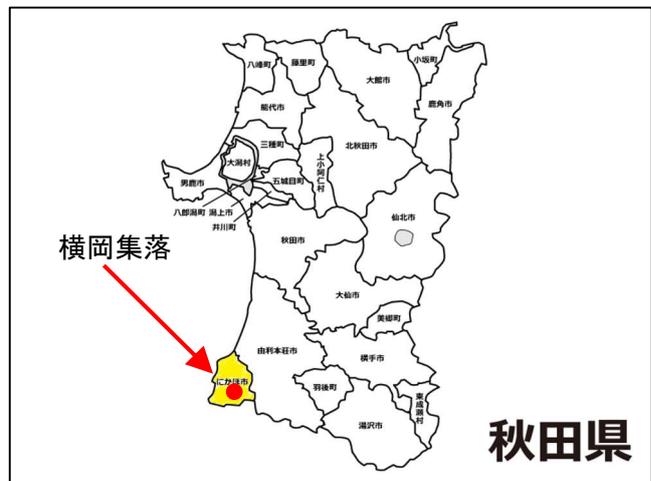
むらづくりの概要

1. 地区の特色

横岡集落は、鳥海山麓の標高100～250mに位置する中山間農業地域で、積雪量は100cmほどあり、市内では雪が多い地域である。

西暦76年にむらが始まったと言われ、1390年には現在の住民の先祖が移り住んだと記録に残されている。また、地域内の至る所に蔵があり、家々を囲むように水路が張り巡らされているなど、山間部の集落としては珍しい光景が広がっている。

第1図 位置図



第1表 地区の概要

事項	内容
地区の規模	集落
組織の性格	地縁的な集団等
人口等	総人口 333人 総世帯数 102戸
農業経営体数 (内訳)	農業経営体数 45経営体 個人経営体数 44経営体 団体経営体数 1経営体 (内、法人経営体数) 0経営体
農用地の状況 (内訳)	総土地面積 3,450ha 耕地面積 187ha 田 182ha 畑 5ha 耕地率 5.4% 一経営体当たり耕地面積 4.2ha

農林水産省疏水百選や土木学会推奨土木遺産に認定された「かみごうおんすいろぐん上郷温水路群」が現在も利用されているほか、県内でも珍しい「石積みの棚田」については、住民が主体となって維持管理を行っていること等から、秋田県の「守りたい秋田の里地里山50」に認定されている。



写真1 横岡集落全景



写真2 集落内の棚田

2. むらづくりの基本的特徴

(1) むらづくりの動機、背景

旧象潟町では、米の生産調整が全国的に強化されたころ、米が作付けされなくなった水田にそばを作付けするようになり、そば栽培が始まった。横岡集落では、現在も稲作を中心としながら、転作作物としてそばの栽培が盛んである。

中山間地域である横岡集落では、耕作放棄地を解消して地域の景観を保全しながら、そばの生産振興を図るため、平成23年に「稲倉そば生産組合」が設立された。はじめは組合長夫妻が中心となって耕作放棄地の所有者のもとを一軒一軒地道に訪ね、積極的にほ場を集積し、そばの作付拡大に取り組んだ。

平成27年には、横岡地域に昔からある農地を守り、維持したいという思いから、集落名の「横岡」を冠して「横岡稲倉そば生産組合」と改名し、そばを通して地域外との交流を生み出すなど、地域活性化に貢献している。

また、平成22年から行っている都市農村交流では、東京都港区の子どもたちの農泊を受け入れており、そば打ち体験等を通じて交流を深めている。さらに、令和3年に地域おこし協力隊として加わった「ベントスVentos」との連携により、都市住民への情報発信等の新たな展開を見せ始めており、そばの力で農村集落を次世代へ繋ぐむらづくりが行われている。

(2) むらづくりの推進体制

各種行事や地域活動を行う組織として、横岡自治会、横岡稲倉そば生産組合、地域おこし協力隊「Ventos」が中心となり、連携して取り組んでいる。

ア 中核的な組織

① 横岡自治会

集落のまとめ役を担う自治会は、市町村合併を機に平成17年に設立され、集落の共有財産の管理のほか、諸活動の運営・補助を行っている。自治会長・副会長のほか、会計、庶務、勧業、文化、建設、安全環境の各部門を設置し地域活動を推進している。

② 横岡稲倉そば生産組合

地域農業の中核を担う営農組織である生産組合は、組合長を中心に一丸となって活動している。平成 23 年の設立当初は組合員 5 名、約 6 ha の作付であったが、令和 4 年には組合員 11 名、約 86ha に拡大している。横岡集落に留まらず広く農地を借り受け、市内のそば作付面積の約 3 割を生産組合で作付しており、そばの大規模生産のパイオニアとして地域内外から注目されている。

③ 地域おこし協力隊「Ventos」

「Ventos」として活動している 2 人の若者が、市やジェイアール東日本企画が共同で行ったビジネスプランコンテストでの受賞をきっかけに、にかほ市の地域おこし協力隊に就任し、2 人が観光資源を探していたところ、市の観光課から生産組合の組合長を紹介され、出会ったその日にそば打ちを体験し、打ちたてのそばの味に感動したという。その後も、地域との交流を通して住民の人柄に惹かれ、また、山と海が近い独特の環境や美しい棚田等、他地域にない唯一無二の魅力を感じ、横岡集落を拠点として活動する決心をした。

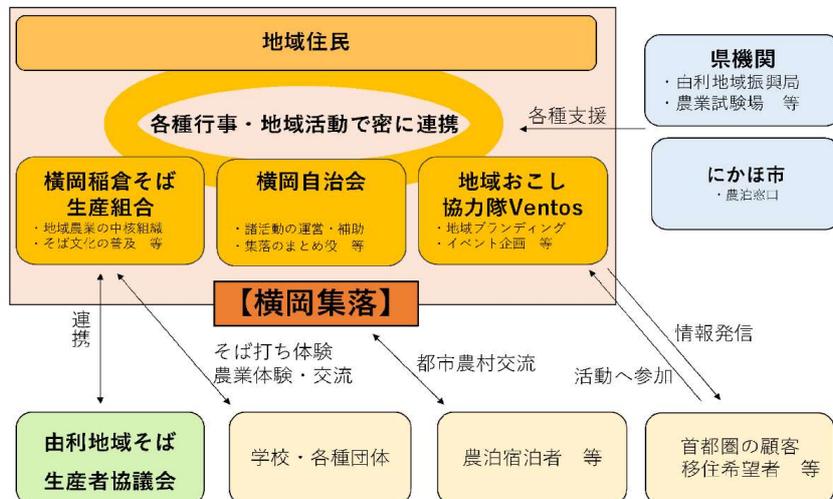
「都会出身者に対して” 田舎での生活の豊かさを体感し、自分の田舎を作る” 価値を提供する」をコンセプトに、地域の観光資源の発掘やゲストハウスを活用した交流人口の拡大、集落で収穫した農産物の商品開発等の活動を展開している。

イ 連携関連団体

① 由利地域そば生産者協議会

横岡稲倉そば生産組合は「由利地域そば生産者協議会」に参画し、そば栽培の技術向上や担い手育成を図っている。協議会では、そばの栽培に関する情報交換や現地研修会等を開催しながら、集落を超えた活動を行っており、地域全体でそば栽培を盛り上げる活動に取り組んでいる。

第 2 図 むらづくり推進体制図



むらづくりの特色と優秀性

1. むらづくりの性格

横岡集落は、戦国時代以降、領主や地域名が目まぐるしく変わってきた地域で、長い歴史の中で育まれてきた多くの伝統芸能や文化を地域全体で大切に受け継いでいくため、時勢に合わせて行事の開催方法等を見直す柔軟性を持ち合わせている。

また、地域住民が提案する新しい企画も積極的に取り入れており、住民主体で「伝統と革新が息づくむらづくり」に取り組み、集落を力強く発展させている。

さらに、日本型直接支払制度を活用し、住民が一体となって農地保全活動に取り組んでいるほか、地域の自慢である棚田をきれいに維持管理するなど、住民が地域行事や共同作業に協力的で、一体感の強い地域である。

2. 農業生産面における特徴

(1) そばの生産

集落の耕作放棄地や水田転作地で湿害に弱いそばを作付けするにあたり、徹底した排水対策を根気強く継続することで、安定して高収量のそば生産を実現している。

生産組合では、明渠と暗渠を3年毎に施工しているほか、土壌診断に基づく施肥量の調整に加え、適期は種に努めるなど、収量向上につながる栽培技術が確立されており、単収は市内の平均を10kgほど上回る50kgを例年達成している。

また、気象リスクの分散を図るため、夏そばと秋そばを組み合わせた二期作を行っており、夏そばの収穫期が早いことから、全国に先駆けて新そばを提供している。

平成29年には、乾燥・調製施設「^{ゆめこうぼう}夢工房」を建設し、収穫から出荷までこだわり抜いたそば生産に取り組んでいる。

令和2年度には優れた栽培技術が評価され、全国そば優良生産表彰事業で「一般社団法人日本蕎麦協会会長賞」を受賞し、令和3年度にはそば生産を通じて地域活性化に貢献している功績が認められ、ふるさと秋田農林水産大賞・農山村活性化部門で「大賞」を受賞している。



写真3 そば生産組合の組合長夫妻

(2) そばのブランド化

横岡産のそばの実を石臼で挽いてそば粉にし、つなぎとして卵・豆腐を加えた、こだわりのそばとして提供している。

グリーン・ツーリズム活動、年越しそば打ち体験、他自治会でのそば打ち教室等、様々な場面でそば打ち体験を実施して好評を得ており、横岡産そばの認知度向上に貢献している。

また、東京都内の飲食店で毎年8月に開催される「新そば祭」では、平成28年から横岡産そばを提供しており、清涼感ある香りで味わい深い横岡産そばは、毎年、消費者から高い満足度を得ており、リピーターも増えている。



写真4 こだわりのそば

(3) そば文化の継承

生産組合の組合員は、設立当初は5名であったが、作付面積の拡大に伴い、現在は11名で構成され、集落の約3割の農地を集積している。

また、「由利地域そば生産者協議会」では、そば文化を次代へ継承するために地域の若手農業者団体にそば打ち指導を行うなど、技術の伝承にも取り組んでいる。

3. 生活・環境整備面における特徴

(1) 都市住民等との交流

市が行うグリーン・ツーリズム活動において、自治会とそば生産組合が連携し、毎年8月に東京都港区の子供たち約20名を集落内の家庭で受け入れており、そば打ち体験や野菜の収穫等の農業体験を通して、積極的に交流を行っている。



写真5 都市部の子供たちとの農作業体験

(2) 地域おこし協力隊と連携した横岡の魅力発信

「Ventos」による集落内の古民家を活用したゲストハウスの開設にあたっては、地域住民への説明会の開催や、自治会だよりによる作業状況の紹介、各家庭で使われなくなった古家具の再利用等に取り組み、ゲストハウスを身近に感じてもらえるよう、住民とのコミュニケーションを大事にして、地域を巻き込みながら改修を進め、「麓☐-Rokumasu」という名称で令和5年5月にオープンを迎えた。

また、交流人口の増加とゲストハウスへの愛着醸成を図るため、改修作業をイベントとして企画し、SNSや市の広報を通じて地域内外からボランティアを募った。「壁の漆喰塗り体験」では、家族連れを中心に30~40人が参加し、「貴重な作業を通じて人とのつな

がりが新たに生まれた」等と喜ぶ声が聞かれた。

今後は、集落やそば生産組合と連携しながら、ゲストハウスを他地域からの関係人口創出だけでなく、半農半Xや田舎でのスローライフ等、多様なライフスタイルに合わせた定住促進や農漁業体験を行うための拠点として活用する計画であり、地域食材を使用した食の提供や商品開発にも取り組むこととしている。



写真6 ゲストハウスの改修作業参加者

(3) 地域景観保全

横岡稲倉そば生産組合は、そば栽培により耕作放棄地の解消に積極的に取り組んでおり、地域の景観保全にも貢献している。集落にほど近い高速道路 IC 周辺の棚田では、耕作放棄地の増加により景観が悪化していたことから、近隣のそば生産団体と連携して木の伐採、伐根を行い、そばの作付に取り組んでいる。そのほか、農地保全活動や景観保全のための植栽、棚田の維持管理等に地域が一体となって取り組んでいる。

(4) 伝統芸能、文化の伝承等の地域住民参加型の活動

国指定重要無形民俗文化財の「上郷の小正月行事」や、県指定無形民俗文化財の「鳥海山日立舞」などの伝統芸能や文化が伝承されており、メディア取材や地域外からの観光客が訪れるなど、賑わいの一役を担っている。

横岡集落では地域住民発案の新しい企画も積極的に実施しており、小学校分校跡地で40年続いている集落の運動会は、他地域に移住した住民も子供連れで参加する人気行事として定着している。さらに、毎年12月に開催している年越しそば打ち体験は、子どもたちを中心に、例年100人以上が参加するなど、新たな賑わいを創出している。

こうした行事等を住民に周知するため、自治会では、月1回「自治会だより」を発行しており、地域のコミュニケーションツールとして重宝されている。



写真7 鳥海山日立舞



写真8 子供たちのそば打ち体験